

(別表第1の3)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20 年 6 月 2 日

【評価実施概要】

事業所番号	3893500011		
法人名	医療法人 河辺整形外科		
事業所名	グループホームひなたぼっこ		
所在地	伊予郡松前町西高柳267-1 (電話) 089-984-0022		
管理者	松田加代子		
評価機関名	愛媛県社会福祉協議会 利用者支援班		
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8-15		
訪問調査日	平成 20 年 5 月 12 日	評価確定日	平成 20 年 6 月 4 日

【情報提供票より】 (平成 20 年 4 月 20 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 19 年 3 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤 7 人, 非常勤 7 人, 常勤換算	12.2 人

(2) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42,000 円	その他の経費(月額)	13,000 円	
敷金	有()円 ○ 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()円 ○ 無	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,200 円		

(3) 利用者の概要 (平成 20 年 4 月 20 日事業所記入)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護 1	5 名		要介護 2	10 名	
要介護 3	1 名		要介護 4	1 名	
要介護 5	1 名		要支援 2	名	
年齢	平均 84 歳	最低 69 歳	最高	101 歳	

(4) 他に事業所として指定等を受けている事業及び加算

指定	あり	指定介護予防認知症対応型共同生活介護
指定	なし	指定認知症対応型通所介護
届出	なし	短期利用型共同生活介護
加算	なし	医療連携体制加算

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

田園風景の中にある、瀟洒な佇まいのホームである。開設後まだ1年であるが、玄関先や駐車場にイスを点在させて利用者が近所の人とおしゃべりを楽しめるように工夫し、地域との繋がりを深めるのに余念がない。まだ若いホームであるが、「焦らず、怒らず、諦めず」という理念を職員が実践しようと日々努めており、利用者は落ち着いた時間を過ごしている。また、管理者の福祉職としてのキャリアと運営者の医療的なバックアップが利用者や家族に安心感を与えている。利用者の状態に応じてケア体制は変化していくものであるが、それに柔軟に対応できるホ

【質向上への取組状況】

▼ 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)

初回の評価であるため、前回の評価に対する取り組みは行われていない。

▼ 今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)

初回であるため、評価自体の取り組みの理解が余り進んでおらず、管理者主導で行われている。外部評価での話し合いで、評価の意義や方法をよく理解いただいたので、次回には職員からのボトムアップによる取り組みが期待できる。

▼ 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)

運営推進会議は開設後直ぐから開催されており、地域とのつながりをつくる場として有効に活用されている。会議の前に利用者とお茶会を行うなどホームが閉鎖的にならないような工夫も行われている。今後は職員が運営する場面を作ること、運営推進会議に広がりを持たせる取り組みも予定しており、期待できる。

▼ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)

家族に対しては管理者による丁寧な聞き取りが行われている。開設から数か月で利用者が少ない時は、面会時などでの対応で賄っていたが、今後はホーム便りや意見箱の設置などに取り組む予定がある。家族の苦情等への対応として、第三者機関の紹介などは必要と思われるので、対応を期待する。

▼ 日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)

運営推進会議を通して、地区の民生委員や自治会とは交流を深めてきている。しかし、現段階はホームとして地域と付き合うための基礎固めが終わった段階と思われる。今後は、利用者が主体となる付き合いを進めていくことを期待する。また、利用者が地域貢献できる場面を設定することも検討を望む。

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
 - 各自己評価項目について、「取組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
 - 「取組みの事実」は必ず記入すること。
- (注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名 グループホームひなたぼっこ

(ユニット名) さくら

記入者(管理者)
氏名 松田 加代子

評価完了日 平成 20 年 4 月 15 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 職員会議で独自の理念を決めた。親しみやすい言葉と文字で目につくところに掲示している。 (外部評価) ホームの理念を「決して焦らず、怒らず、諦めず」とし、認知症の介護に必要な視点を的確に表現している。また、ホームの所在地の地名を理念に取り入れ、地域の一員であることを絶えず意識しようとしており、「大家族」のフレーズも事業所のめざす方向を表している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 職員会議の際は必ず確認を行っている。日常的にもお互い意識するよう声をかけている。 (外部評価) 端的な言葉で構成されている理念は、介護の基本を示しており、そのことを管理者をはじめ職員もよく理解している。「判断に迷った時には立ち返る」「実現することは難しいと思うが少しでも近付きたい」などの言葉が発せられ、普段から理念を意識していることが理解できる。		
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	(自己評価) 理念に関しては、家族・地域への積極的な働きかけができていない。	※	ホームでの行事に関して回覧板でお知らせするなど地域への働きかけを行っていく。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) ほぼ毎日散歩に出かけており、その際会った方と立ち話をしたり、お茶にお誘いしたりしている。	※	回覧板などの利用によりもっと積極的な働きかけを行って行きたい。
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 地域の学校の運動会や文化祭に参加し、少しずつ交流が持てている。 (外部評価) 利用者が定員に達してからまだ3か月しか経っておらず、それまでは利用者と職員との馴染みの関係構築や職員のスキルアップなど、ホーム内を整えていくことに終了しており、地域への働きかけは十分に行われているとまでは言えない。	※	老人会への働きかけをしたい。 運営推進会議を通して、地区の民生委員や自治会とは付き合いを深めてきている。また、管理者は介護業務との兼任ではあるが、地域への働きかけが可能な時間を確保している。ホームとして地域との基礎固めが終わった段階と思われるので、利用者が主体となる付き合いをすすめることを期待する。
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) ホームの近くに小学校があり、通学路となっている為まもるくんの家の届出をしている。 高齢者等に役立つことは現在模索中。	※	ホームとしてできることはなにか、運営推進会議や職員会議で話し合いを行っていく。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 初回であり、管理者より職員へ評価の意義を説明し理解を得ている。 (外部評価) 外部評価については自らのケアの見直しという意識の上、改善に取り組みたいという意欲が感じられるが、自己評価は管理者がまとめ、それについて職員が確認するという過程で行われているため、評価項目の意味を深く読みとるという作業が十分に行われているとは言えない。	※	評価の結果を生かし、サービスの質の向上を図りたい。 評価の意義をよく理解してもらったため、次回からの取り組みは期待できる。一年間の自らのケアを振り返りながら評価項目の読み込みを行うことを期待する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 会議は行われ、情報交換ができていますが、家族の参加が実現できていない。	※	利用者さんとそのご家族にも参加していただくよう計画する。
			(外部評価) ホーム開設直後から運営推進会議を行っており、地域との連携に有用となっていることが記録等から感じられる。管理者は運営推進会議に広がりを持たせたいと考えがあり、家族の参加促進も検討しているので今後に期待したい。また、職員が運営推進会議を担当することも職員のスキルアップとなるので、取組みを期待したい。	※	頻りに面会に来られる家族が多いホームなので、地域と家族が協力すると、利用者へのサービスは一段と向上することが期待できる。管理者の積極的な取組みに期待したい。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) わからないことがある時は、電話をしたり訪問をしたりして相談している。介護保険上の手続きの際も課に赴き情報交換をしている。		
			(外部評価) 管理者は福祉現場の経験が長く、行政とのつながりも深い。そのキャリアをホームの運営にも活かし、町職員、地域包括支援センター職員などとスムーズに連携しており、利用者のサービスの向上に努めている。		
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 理解不足である。	※	今後研修参加や自己学習にて理解を深め、職員全員が活用できるようになりたい。
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 努めている。	※	法律についても学ぶ機会を持ちたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約をする際は個室にて十分な説明を行い、疑問点があればそれを解消するよう努めている。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者からの意見や、不満・苦情があった場合は職員に伝達し速やかに改善できるよう対応している。 外部への公表の機会は設けていない。		
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) 利用者さんに関してはその都度報告を行っているが、職員に関しては行っていない。	※	今後ホーム便りを作り、職員紹介なども行っていく。
			(外部評価) 家族が面会等でホームを訪れた時には、管理者が積極的に声をかけて利用者の状態を報告している。また、体調の変化については電話で連絡し、報告や相談を行っている。管理者は、ホームの運営が軌道に乗ってきたので、今後はホーム便りを季刊で作成したいと考えている。	※	利用者の生活ぶりを紙面で報告するホーム便りは、家族との連携を強めるアイテムの一つであると考えられるので、早々の取組みを期待したい。
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 意見箱を設置している。契約の際に、苦情があればホーム関係者以外の松前町介護保険課に申し出ることでもできる旨説明している。 苦情があった場合は小さなことでも職員全員に伝達し、改善に努めている。	※	公的な苦情相談窓口に関して文書化することを考えたい。
			(外部評価) 管理者の謙虚に傾聴する姿勢は気持ちよく、家族との話し合いの時にも同様に気持ち良く対応していることがうかがえる。家族なども意見や不満も言いやすい雰囲気づくりに努めている表れと思われるが、第三者や関係機関の相談窓口を家族などに伝えることは必要と思われる。	※	家族などの意見や不満の受付窓口として、市町の介護保険課や第三者機関の連絡先を重要説明書に記載することを検討することを期待する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月の職員会議の際意見交換を行っている。日常的に職員からの意見や提案が管理者に伝えられている。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 努めている。		
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 努めている。 (外部評価) ホーム開設後、1年半が経過しているが、職員の離職が少なく、現在までには職員の異動での利用者への影響は見受けられない。これは運営者や管理者の職員に対するそれとない配慮の賜物と思われるため、今後も継続することを望みたい。		
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 順番に研修に参加できるよう配慮している。研修を受けた際は、職員会議で伝達講習を行っている。 (外部評価) 職員の中にはこのホームで初めて認知症ケアに携わった人も少なくないが、ホームには緩やかな時間が流れている。この状態は新人職員を管理者や先輩職員が教育した故に構築できたものと思われる。しかし、法人外での研修機会はあまり多くない。	※	人員を確保し、更に研修の参加を多くして職員のスキルアップを図りたい。
				※	法人外の研修は、学ぶ機会としての意義も大きいですが、同業者との交流の場としての意義も大きいので、経験の浅い職員には積極的に受講するように勧めていくことを期待する。また、研修は職員の経験や技術に応じて受講するようにシステム化することを望む。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 地域主催の勉強会にはなるべく参加し、参加者との交流を図っている。		
			(外部評価) 町内には認知症のグループホームが3か所（内2か所は同法人）と少なく、地域でのネットワークづくりには基盤が整っていないということもあり、同業者との交流があまり行われていない。	※	グループホーム連絡協議会などに協力を依頼するなど、同業者との交流を進めることを期待する。
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 必要に応じて個別に面接するなどの取り組みが行われている。		
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 努力している。	※	利用前は家族の方の意向を伺うことが主になってしまい、ご本人の気持ちが後回の傾向がある。もっとしっかりご本人の希望や気持ちを理解できるよう努めたい。
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 事前に訪問し、利用に対する不安を解消し納得を得てから利用していただくようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 事前訪問し、入居より在宅でのサービス利用が適切と判断した時は、その理解を得た上で適切なサービスが受けられるよう支援した。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 事前に訪問したり、利用者さんにお試しで来所していただいたりしている。 (外部評価) 現在までの利用者は、在宅からの利用者が半分で、後は病院（施設含む）から移ってきた方である。多くの場合緊急性があったため、事前訪問などで利用者との信頼関係を構築することに力を入れている。利用者の緊急性は今後も続く傾向があり、ソフト面に力を入れることで本人の納得を得ようとする取り組みは評価できる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 日常的に会話する中で、一緒に笑うことが多いが、時には職員が慰められたり、励まされたり、また、時には一緒に涙することもある。 (外部評価) 食事中に職員が利用者の魚をほぐしている時に、「あなた、魚をほぐすのがうまいね」と職員に声をかけるなど、利用者が職員を評価している場面が見られ、お互いさまという関係が定着していることがうかがえる。		
28		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 必要に応じて家族の協力を依頼している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) プライバシーに関わることなので、慎重に情報収集を行っている。ご本人とご家族の距離を置くことで家族関係は改善しているケースが多いように思う。		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 馴染みの場所（自宅）へ一緒に行くなど、その方に応じて支援している。		
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 利用者さん同士のトラブルについては職員が早めに察知し、防止するよう努めている。職員がきっかけを作り、利用者さん同士の会話や共同作業ができるよう支援している。	※	利用者さん同士が和やかに話ができる環境を作る努力をしていきたい。
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 必要に応じてケアマネさんを通じて関わっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日常の会話の中で一人ひとりの意向を確認するよう努めている。毎月のチームカンファレンスで検討している。 (外部評価) 職員は理念を実践するために、利用者の思いを理解する取り組みを日々行っている。今後は、より理解を深めるために利用者の受持ち制を検討しており、期待できる。	※	今後は受け持ち制にし、更に個人を深く理解できるようになりたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時に情報収集を行っている。またご家族へ生活歴の記録も依頼している。入居後はご本人やご家族から情報収集を行っている。		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) ご本人やご家族の希望を聞き、カンファレンスにて話し合いをし、作成している。 (外部評価) 現在は管理者が介護計画を立案し、ケア会議で検討している。職員の多くが福祉職として新人であったこともあり、管理者主導であったが、今後は受持ち制の導入も予定されており、職員が介護計画の作成に関わることが検討されている。職員のスキルアップにも繋がるので、早々の取組みを期待したい。	※	職員主導の介護計画は、介護計画を日々の介護記録と連携する取り組みと合わせて行うことを期待する。介護記録が介護計画の実施の評価となる記述が求められる。
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 状態の変化に応じて計画の見直しを行っている。 (外部評価) 介護計画の見直しは、利用者の状態によるが基本は6か月ごとに行われている。また、毎月のケア会議でチェックした際に変化などがあった場合は、定期の期日を待たずに見直しを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 介護計画に沿った記録をするよう心がけているが、まだ職員全員に浸透していない。	※	介護計画に沿った日々の記録を行い、評価することでよりよい介護計画を作成していきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 利用者さんやご家族の要望に応じて、受診・リハビリ・外出など柔軟な支援を行っている。 (外部評価) 管理者が介護業務と兼任であるため多忙であるが、冠婚葬祭への参加や不定期な検診、車の送迎など臨機応変に対応し、利用者の要望に応じている。外部の諸機関へも積極的に対応を呼びかけ、柔軟な対応を心がけている。事業所の多機能性を高めるためにも管理者の管理業務の専任を望みたい。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 開設以来グループホームを認識していただけるよう働きかけを行っている。推進会議の委員さんとの協力体制は整いつつあり、近隣の教育機関との協力体制もできつつある。		
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 在宅での担当ケアマネジャーさんとは関係を絶つことなく連携をとっている。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 支援センターとの連携はとれているが、具体的なマネジメント等についての話し合いはもたれていない。	※	ケアマネジメントに関しても積極的に相談をしていきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 受診時には主治医宛に手紙を添えるなど、連携をとっている。 (外部評価) 運営法人は診療所であるが、利用者のかかりつけ医を継続している。複数の医療機関との連携が必要となっているが、看護師である管理者が適切に対応している。また、医療的なバックアップを運営者（医師）が携わっており、安心できるシステムとなっている。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 個人のかかりつけの精神科や協力病院である精神科医師に必要に応じて相談している。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) している。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 入院の際には必ず病院に足を運び、担当医師等と連絡をとっている。退院の日時については柔軟に対応している。		
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) どこまでホームで対応できるか入居時にご家族に説明し、了解を得ている。また、ご家族から相談のあったときには丁寧に説明し、ご理解いただいている。 (外部評価) 利用者の重度化や終末期に対しては、「医療行為は行わない」という線引きを決めており、家族への説明も行っている。現在は重介護の方が少なく、夜勤は2ユニットで1人体制で問題はないと思われるが、経年の利用者の機能低下は必ずであることから、考慮すべき点と考えられる。	※	文書化する必要があれば検討したい。
				※	平屋建てで、2ユニットを中央で見守ることが可能な造りとなっているが、重介護が多くなると不安要素も多くなるため、介護の質と利用者の安全を確保するためにも夜勤体制について検討することを望む。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) ホームとしてできることとできないことを入居時にご家族に説明し、ご理解いただいている。かかりつけ医にも必要に応じて伝えている。		
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 経験がなく考えていない。	※	今後起こりうることを考え、検討していきたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 居室に入る時はノックをしたり、許可を得てから入室するなどプライバシーを守るよう努めている。言葉かけや対応については、個人を尊重することを念頭においている。 (外部評価) 利用者への声かけは、その方が落ち着いて生活できるように考えられた言葉を使っている。排泄を促す際には耳元で囁くように行っており、爽やかである。		
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 利用者さんの状況に応じて自己決定ができるような働きかけを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) まず、利用者さんの希望を聞いてからケアを行っている。 (外部評価) 利用者のペースを優先することは、理念にある「焦らず、諦めず」の実践が要求される場面であり、職員は特に配慮している。焦る時は心の中で繰り返し、諦めかけた時は他の職員に応援を依頼するなど、真摯に向き合っており支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 行きつけがある方は行っていただいている。 ない方はご家族と相談の上訪問理容・美容室を利用している。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事準備や片付け、買い物や献立などできるだけ利用者さんと一緒に行うようにしている。同じテーブルで利用者さんの間に入り、会話を楽しみながら食事をしている。 (外部評価) 3つのテーブルに分かれて食事しているが、それぞれのテーブルに職員が付き、利用者とともに食事を楽しんでいる。下ごしらえをした利用者のことを話題にしながら摂る食事は和やかな雰囲気がある。片付けなども利用者によってそれぞれであり、日常の一部となっていることが分かる。		
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 嗜好に合わせて楽しめるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 一人ひとりの排泄パターンを把握することから始め、トイレで排泄できるよう支援している。失禁は職員の失敗であると考えている。		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) ご本人の希望に合わせて入浴していただいている。拒否のある方には声かけを工夫して気持ちよく入浴していただけるよう支援している。 (外部評価) 入浴の時間帯は午前と午後に設定されており、その中で順番などを利用者の希望に添うようにしている。職員は入浴ケアは利用者との信頼度を増す重要な時間として大事にしており、心地よいサービスが提供できていることが感じ取れる。		
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 一人ひとりの状況に応じて休息していただいている。不眠の方に話を聞いたりお茶を飲んでいただいたり、安心できるような対応を心がけている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 入居時の情報や、後日収集した情報からご本人の得意なこと好きなことを把握し、レクリエーションや作業を提供している。 (外部評価) アセスメントシートにある生活歴を基にしているが、職員と利用者がホームで一緒に生活をしていく上で構築された役割や楽しみ事を重視し、日常生活に組み込んでいる。また、普段着の生活を提供することを目標としているため、必然的に利用者にストレスをためないための気晴らしにも配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 能力に応じてお金を所持していただいている。買い物の際自分で支払いをしていただいている。		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 安全を確保した上で、自由に散歩していただいている。毎日の買い物は利用者さんと一緒に行くようにしている。 (外部評価) 散歩や買い物など職員から外出を促すような取り組みを行っている。外出は利用者が地域の人と触れ合える機会との認識もあり、積極的な外出支援が行われている。		
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) まだできていない。		今後検討したい。
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 希望と必要に応じて行っている。		
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 気兼ねなく自由に訪問していただけるよう心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 理解しており、拘束をしないケアを心がけている。		
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 玄関にセンサーを設置したり風鈴をつけることで施錠をしないよう取り組んでいる。 (外部評価) 玄関やユニット入口は、夜間の防犯以外には鍵は掛けられていない。排泄や入浴介護などで職員の目が少なくなっても、見守りを怠らないように職員間で話し合いができており、利用者の安全に配慮している。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 夜間は1時間ごとに安否確認を行っている。 日中は利用者さんの所在を定期的に確認している。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) している。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) マニュアルを作成しているが、個別の対応については職員全員に周知できていない。 ヒヤリハットの活用で事故防止に努めている。	※	順次救命講習を受けていく。


自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 訓練は行われていない。	※	順次救命講習を受けていく。
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 近所に推進会議の委員さんがいらっしゃるので協力は得られるが、具体的に依頼していない。 (外部評価) 避難訓練などはまだ実施されていない。また、地域との連携も求められる。	※ ※	近隣の方々に依頼して連絡網を作成したい。 近々に避難訓練を行う予定があるということなので、定期化することを望む。また、地域住民を交えての訓練も検討することを期待する。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	(自己評価) 入居時に想定できるリスクについては話をしている。状況に応じて早めにご家族の方には説明するよう努めている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 状態の変化については職員間で情報を共有している。管理者を通じてご家族に連絡し、必要に応じて主治医の指示を仰いでいる。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬のファイルを作り理解に努めている。薬の変更がある時は申し送りで全員に伝達している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 食材に繊維の多い野菜を多く使用するよう努めている。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 毎食後一人ひとりに合った支援を行っている。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事摂取量や水分摂取量のチェックは行っているが、摂取カロリーのチェックができていない。 病状的に減塩の必要な方には減塩対策をしている。 (外部評価) ある程度のメニューは決められているが、旬の食材やスーパーの特売状況などで献立は変わる。また、利用者の希望や職員の技量にも左右される面があるが、作った料理は記録している。記録を見る限りは栄養バランスには問題はないと思われるが、カロリーなど数値的な裏付けがなされていない。	※	栄養バランス・カロリー計算などのチェックを行っていく。 献立や食材の記録から、摂取カロリーや栄養バランスを判断することが可能なため、保健センターなどの協力を得て、毎食の計算ではなくても、一日の目安的な数字を把握することが求められる。
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) マニュアルを作成し、実行している。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) マニュアルを作成し、実行している。 買い物に毎日行き新鮮な食材を購入している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 玄関に花や観葉植物を置いたり、ベンチを置くなど工夫している。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) なるべく季節の植物を飾るようにしている。利用者さんと作った作品やカレンダーを掲示している。 (外部評価) 共用空間は、家具の配置でダイニングとリビングに区切られており、生活のシーンでうまく使い分けている。運営者は、二つ目のホームであるために、間取りや設備をよく研究しており、利用者にとって心地よい空間が提供されている。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 居間のテーブルの自分の席がそれぞれ居場所となっている。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) できるだけ以前生活していた部屋の家財を持ってきていただいている。 (外部評価) 利用者により配置されている家具等は異なるが、それぞれ使い慣れたものを持ち込んでいる。また、写真や絵なども飾られており、居心地よく過ごせる部屋となっている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 個々の状態に応じて温度調節を行っている。衣類の調節で温め過ぎず、冷やし過ぎずを努めている。天気の良い日はなるべく布団を干したり換気したりしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) バリアフリーで手すりがついており安全で自立した生活を送っていただけるよう配慮している。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 個人の状況に応じて大きく名前を書いたり、トイレの表示をしたりしている。		
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 敷地内の畑で作業をしていただいたり、ベンチに座り作物を眺めたりしていただいている。テラスにもベンチを置きひなたぼっこをしながらお茶を楽しんだりしていただいている。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目			
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	① ほぼ全ての利用者の (自己 2 利用者の2/3くらい 評価) 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんど掴んでいない	毎日の利用者さんとの会話の中で、思いや願いを汲み取るよう努めている。また、その情報を職員間で共有している。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	① 毎日ある (自己 2 数日に1回程度ある 評価) 3 たまにある 4 ほとんどない	毎日の食事、おやつは利用者さんと一緒に頂くようにしている。天気の良い日は、テラスに出てひなたぼっこをしている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	一人ひとりの能力とその日の状況を把握したうえで、ご本人のペースが保てるよう支援している。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者さん一人ひとりの得意なこと・好きなことを把握し、それが発揮できるよう、また、楽しめるよう支援している。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	① ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	外出行事はなるべく全員が参加できるよう心がけている。希望に応じて、買い物や近辺の散歩に出ている。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	それぞれにかかりつけ医を有しており、異常があれば連絡をしている。看護資格を有している職員が3名おり、健康管理を行っている。毎朝バイタルチェックを行い異常の早期発見に努めている。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	業務のマニュアルにとらわれることなく利用者さんの状況や要望を優先して支援している。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく	① ほぼ全ての家族と (自己 ② 家族の2/3くらいと 評価) 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	ご家族の方が来所された際は利用者さんの状況をお話し、ご家族の不安解消や希望の聞き取りができるよう努めている。なかなかお会いできないご家族には毎月文書でお知らせしている。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	① ほぼ毎日のように (自己 2 数日に1回程度 評価) ③ たまに 4 ほとんどない	近所の小学校の生徒さんが遊びに来てくれたり、畑の手伝いをしてくださる方がきてくださっている。散歩の際知り合った近所の方に遊びに来てくださるよう声かけをしている。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大に増えている (自己 ② 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	会議では地元の方から協力的なご意見や、情報提供を頂いている。関係機関の方々からは利用者さんの紹介を頂き、入居後も面会に来てくださっている。
98	職員は、活き活きと働いている	① ほぼ全ての職員が (自己 2 職員の2/3くらいが 評価) 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	職員は利用者さんの笑顔を見ることに喜びを感じている。また、職員間で支援方法の検討を行うなど前向きに仕事ができている。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	満足していただけるようサービス提供を行っているが、全ての方が満足されているかどうかは判断しがたい。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての家族等が (自己 ② 家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	ご家族の方からご指摘があった場合は真摯に受けとめ改善するようにしている。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

- ・基本理念にもある、怒らない・焦らない・諦めないを常に念頭に置き、利用者さんに安心して生活していただけるよう心がけている。
- ・質の良い暖かい笑いを大切にし、利用者さんの笑顔が見られるよう支援している。
- ・利用者さんのできることとできないことを把握した上で、できないことはお手伝いし、できることはなるべく一緒に行っている。

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
 - 各自己評価項目について、「取り組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
 - 「取り組みの事実」は必ず記入すること。
- (注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名	グループホームひなたぼっこ
(ユニット名)	あおい
記入者(管理者)	
氏名	松田 加代子
評価完了日	平成 20 年 4 月 20 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 職員会議で独自の理念を決めた。親しみやすい言葉と文字で目につくところに掲示している。 (外部評価) ホームの理念を「決して焦らず、怒らず、諦めず」とし、認知症の介護に必要な視点を的確に表現している。また、ホームの所在地の地名を理念に取り入れ、地域の一員であることを絶えず意識しようとしており、「大家族」のフレーズも事業所のめざす方向を表している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 職員会議の際は必ず確認を行っている。日常的にもお互い意識するよう声をかけている。 (外部評価) 端的な言葉で構成されている理念は、介護の基本を示しており、そのことを管理者をはじめ職員もよく理解している。「判断に迷った時には立ち返る」「実現することは難しいと思うが少しでも近付きたい」などの言葉が寄せられ、普段から理念を意識していることが理解できる。		
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	(自己評価) 理念に関しては、家族・地域への積極的な働きかけができていない。	※	ホームでの行事に関して回覧板でお知らせするなど地域への働きかけを行っていく。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) ほぼ毎日散歩に出かけており、その際会った方と立ち話をしたり、お茶にお誘いしたりしている。	※	回覧板の利用などによりもっと積極的に働きかけをおこなって行きたい。
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 地域の学校の運動会や文化祭に参加し、少しずつ交流が持てている。 (外部評価) 利用者が定員に達してからまだ3か月しか経っておらず、それまでは利用者や職員との馴染みの関係構築や職員のスキルアップなど、ホーム内を整えていくことに終了しており、地域への働きかけは十分に行われているとまでは言えない。	※	運営推進会議を通して、地区の民生委員や自治会とは付き合いを深めてきている。また、管理者は介護業務との兼任ではあるが、地域への働きかけが可能な時間を確保している。ホームとして地域との基礎固めが終わった段階と思われるので、利用者が主体となる付き合いをすすめることを期待する。
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) ホームの近くに小学校があり、通学路となっているため、まもるくんの家の届出をしている。 高齢者に役立つことは現在模作中。	※	ホームとして出来ることは何か、運営推進会議や職員会議で話し合いを行っていく。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 初回であり、管理者より職員へ評価の意義を説明し、理解を得ている。 (外部評価) 外部評価については自らのケアの見直しという意識の上、改善に取り組みたいという意欲が感じられるが、自己評価は管理者がまとめ、それについて職員が確認するという過程で行われているため、評価項目の意味を深く読みとるという作業が十分に行われているとは言えない。	※	評価の結果を生かし、サービスの質の向上を図りたい。 評価の意義をよく理解してもらったため、次回からの取り組みは期待できる。一年間の自らのケアを振り返りながら評価項目の読み込みを行うことを期待する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 会議は行われ、情報交換が来ているが、家族の参加は実現できていない。	※	利用者さんとそのご家族にも参加していただくよう計画する。
			(外部評価) ホーム開設直後から運営推進会議を行っており、地域との連携に有用となっていることが記録等から感じられる。管理者は運営推進会議に広がりを持たせたいと考えがあり、家族の参加促進も検討しているので今後に期待したい。また、職員が運営推進会議を担当することも職員のスキルアップとなるので、取組みを期待したい。	※	頻繁に面会に来られる家族が多いホームなので、地域と家族が協力すると、利用者へのサービスは一段と向上することが期待できる。管理者の積極的な取り組みに期待したい。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) わからないことがある時は、電話をしたり訪問したりして相談している。介護保険上の手続きの際も課に赴き情報交換をしている。		
			(外部評価) 管理者は福祉現場の経験が長く、行政とのつながりも深い。そのキャリアをホームの運営にも活かし、町職員、地域包括支援センター職員などとスムーズに連携しており、利用者のサービスの向上に努めている。		
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 理解不足である。	※	今後研修参加や自己学習にて理解を深め、職員全員が活用できるようになりたい。
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 努めている。	※	法律についても学ぶ機会を持ちたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約の際は、個室にて十分な説明を行い疑問があればそれを解消できるよう努めている。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者さんからご意見や、不満、苦情があった場合は職員全員に伝達し、速やかに改善できるよう対応している。 外部への公表の機会は設けていない。		
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) 利用者さんに関してはその都度報告を行っているが、利用者に関しては行っていない。	※	今後ホーム便りを作り、職員紹介なども行っていく。
			(外部評価) 家族が面会等でホームを訪れた時には、管理者が積極的に声をかけて利用者の状態を報告している。また、体調の変化については電話で連絡し、報告や相談を行っている。管理者は、ホームの運営が軌道に乗ってきたので、今後はホーム便りを季刊で作成したいと考えている。	※	利用者の生活ぶりを紙面で報告するホーム便りは、家族との連携を強めるアイテムの一つであると考えられるので、早々の取組みを期待したい。
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 意見箱を設置している。契約の際に、苦情があればホーム関係者以外の松前町介護保険課に申し出ることもできる旨説明している。 苦情があった場合は小さなことでも職員全員に伝達し、改善に努めている。	※	公的な苦情相談窓口に関して文書化することを検討したい。
			(外部評価) 管理者の謙虚に傾聴する姿勢は気持ちよく、家族との話し合いの時にも同様に気持ち良く対応していることがうかがえる。家族なども意見や不満も言いやすい雰囲気づくりに努めている表れと思われるが、第三者や関係機関の相談窓口を家族などに伝えることは必要と思われる。	※	家族などの意見や不満の受付窓口として、市町の介護保険課や第三者機関の連絡先を重要説明書に記載することを検討することを期待する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月の職員会議の際意見交換を行っている。日常的に職員からの意見や提案が管理者に伝えられている。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 努めている。		
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 努めている。 (外部評価) ホーム開設後、1年半が経過しているが、職員の離職が少なく、現在までには職員の異動での利用者への影響は見受けられない。これは運営者や管理者の職員に対するそれとない配慮の賜物と思われるため、今後も継続することを望みたい。		
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 順番に研修に参加できるよう配慮している。研修を受けた際は、職員会議で伝達講習を行っている。 (外部評価) 職員の中にはこのホームで初めて認知症ケアに携わった人も少なくないが、ホームには緩やかな時間が流れている。この状態は新人職員を管理者や先輩職員が教育した故に構築できたものと思われる。しかし、法人外での研修機会はあまり多くない。	※	人員を確保し、更に多くの研修に参加することで職員のスキルアップを図りたい。
				※	法人外の研修は、学ぶ機会としての意義も大きいですが、同業者との交流の場としての意義も大きいので、経験の浅い職員には積極的に受講するように勧めていくことを期待する。また、研修は職員の経験や技術に応じて受講するようにシステム化することを望む。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 地域主催の勉強会にはなるべく参加し、参加者との交流を図っている。 (外部評価) 町内には認知症のグループホームが3か所（内2か所は同法人）と少なく、地域でのネットワークづくりには基盤が整っていないということもあり、同業者との交流があまり行われていない。	※	グループホーム連絡協議会などに協力を依頼するなど、同業者との交流を進めることを期待する。
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 必要に応じて個別に面接するなどの取り組みが行われている。		
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 努力している。	※	利用前は家族の方の意向に重点を置く傾向にある。今後は利用前にもご本人の意向や気持ちを十分聞き取りしたい。
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 事前に訪問し、利用に対する不安を解消し納得を得てから利用していただくようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 事前訪問し、入居より在宅サービス利用が適切と判断した時は、その理解を得た上で適切なサービスが受けられるよう支援した。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 事前に訪問したり、利用者さんにお試しで来所していただいたりしている。 (外部評価) 現在までの利用者は、在宅からの利用者が半分で、後は病院（施設含む）から移ってきた方である。多くの場合緊急性があったため、事前訪問などで利用者との信頼関係を構築することに力を入れている。利用者の緊急性は今後も続く傾向があり、ソフト面に力を入れることで本人の納得を得ようとする取り組みは評価できる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 日常的に会話する中で、一緒に笑うことが多いが、時には職員が慰められたり、励まされたり、また、時には一緒に涙することもある。 (外部評価) 食事中に職員が利用者の魚をほぐしている時に、「あなた、魚をほぐすのがうまいね」と職員に声をかけるなど、利用者が職員を評価している場面が見られ、お互いさまという関係が定着していることがうかがえる。		
28		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 必要に応じて家族の協力を依頼している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) プライバシーに関わることなので、慎重に情報収集を行っている。ご本人とご家族の距離を置くことで家族関係が改善しているケースが多いように思う。		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) なじみの場所（自宅）へ一緒に行くなど、その方に応じて支援している。		
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 利用者さん同士のトラブルについては職員が早めに察知し、防止するよう努めている。職員がきっかけを作り、利用者さん同士の会話や共同作業ができるよう支援している。		
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 必要に応じてケアマネさんを通じて関わっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日常の会話の中で一人ひとりの意向を確認するよう勤めている。毎月のチームカンファレンスで検討している。 (外部評価) 職員は理念を実践するために、利用者の思いを理解する取り組みを日々行っている。今後は、より理解を深めるために利用者の受持ち制を検討しており、期待できる。	※	今後は受け持ち制にし、更に個人を深く理解できるようになりたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時に情報収集を行っている。また、ご家族に生活歴の記入を依頼している。入居後はご本人やご家族から情報収集を行っている。		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) ご本人やご家族の希望を聞き、カンファレンスにて話し合いをし作成している。 (外部評価) 現在は管理者が介護計画を立案し、ケア会議で検討している。職員の多くが福祉職として新人であったこともあり、管理者主導であったが、今後は受持ち制の導入も予定されており、職員が介護計画の作成に関わることが検討されている。職員のスキルアップにも繋がるので、早々の取組みを期待したい。	※	職員主導の介護計画は、介護計画を日々の介護記録と連携する取り組みと合わせて行うことを期待する。介護記録が介護計画の実施の評価となる記述が求められる。
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 状態に応じての見直しができていない。 (外部評価) 介護計画の見直しは、利用者の状態によるが基本は6か月ごとに行われている。また、毎月のケア会議でチェックした際に変化などがあった場合は、定期の期日を待たずに見直しを行っている。	※	入居時期が重なり対応できていない。今後は状態に応じて見直しを行っていく。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 介護計画に沿った記録をするよう心がけているが、まだ職員全員に浸透していない。	※	介護計画に沿った日々の記録を行い、評価することでよりよい介護計画を作成していきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 利用者さんやご家族の要望に応じて、受診・リハビリ・外出など柔軟な支援を行っている。 (外部評価) 管理者が介護業務と兼任であるため多忙であるが、冠婚葬祭への参加や不定期な検診、車の送迎など臨機応変に対応し、利用者の要望に応じている。外部の諸機関へも積極的に対応を呼びかけ、柔軟な対応を心がけている。事業所の多機能性を高めるためにも管理者の管理業務の専任を望みたい。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 開設以来グループホームを認識していただけるよう働きかけを行っている。推進会議の委員さんとの協力体制は整いつつあり、近隣の教育機関との協力体制もできつつある。		
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 在宅での担当ケアマネジャーさんとは関係を絶つことなく連携をとっている。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 支援センターとの連携は取れているが、具体的なマネジメント等についての話し合いはもたれていない。	※	具体的なマネジメントに関しても相談していきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 受診時には主治医あてに手紙を添えるなど連携をとっている。 (外部評価) 運営法人は診療所であるが、利用者のかかりつけ医を継続している。複数の医療機関との連携が必要となっているが、看護師である管理者が適切に対応している。また、医療的なバックアップを運営者（医師）が携わっており、安心できるシステムとなっている。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 個人のかかりつけの精神科や協力病院である精神科医師に必要に応じて相談している。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) している。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 入院の際には必ず病院に足を運び、担当医師等と連絡を取っている。退院の日時については柔軟に対応している。		
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) どこまでホームで対応できるか入居時にご家族に説明し、了解を得ている。また、ご家族から相談のあったときには丁寧に説明し、ご理解いただいている。 (外部評価) 利用者の重度化や終末期に対しては、「医療行為は行わない」という線引きを決めており、家族への説明も行っている。現在は重介護の方が少なく、夜勤は2ユニットで1人体制で問題はないと思われるが、経年の利用者の機能低下は必至であることから、考慮すべき点と考えられる。	※	文書化する必要があれば検討したい。
				※	平屋建てで、2ユニットを中央で見守ることが可能な造りとなっているが、重介護が多くなると不安要素も多くなるため、介護の質と利用者の安全を確保するためにも夜勤体制について検討することを望む。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) ホームとしてできることとできないことを入居時にご家族に説明し、ご理解いただいている。かかりつけ医にも必要に応じて伝えている。	※	文書化する必要があれば検討したい。
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 経験がなく考えていない。	※	今後起こりうることとを考え、検討していきたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 居室に入るときはノックをしたり、許可を得てから入室するなどプライバシーを守るよう努めている。言葉かけや対応については、個人を尊重することを念頭においている。 (外部評価) 利用者への声かけは、その方が落ち着いて生活できるように考えられた言葉を使っている。排泄を促す際には耳で囁くように行っており、爽やかである。		
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 利用者さんの状況に応じて自己決定ができるような働きかけを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) まず、利用者さんの希望を聞いてからケアを行っている。 (外部評価) 利用者のペースを優先することは、理念にある「焦らず、諦めず」の実践が要求される場面であり、職員は特に配慮している。焦る時は心の中で繰り返し、諦めかけた時は他の職員に応援を依頼するなど、真摯に向き合って支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 行きつけがある方は行っていただいている。 ない方はご家族と相談の上理容・美容室を利用している。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事準備や片付け、買い物や献立などできるだけ利用者さんと一緒に行うようにしている。同じテーブルで利用者さんの間にはいり、会話を楽しみながら食事をしている。 (外部評価) 3つのテーブルに分かれて食事しているが、それぞれのテーブルに職員が付き、利用者とともに食事を楽しんでいる。下ごしらえをした利用者のことを話題にしながら摂る食事は和やかな雰囲気がある。片付けなども利用者によってそれぞれであり、日常の一部となっていることが分かる。		
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 嗜好にあわせて楽しめるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 一人一人の排泄パターンを把握することから始め、トイレで排泄できるよう支援している。失禁は職員の失敗と考えている。		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) ご本人の希望に合わせて入浴していただいている。拒否のある方には声かけを工夫して気持ちよく入浴していただけるよう支援している。 (外部評価) 入浴の時間帯は午前と午後に設定されており、その中で順番などを利用者の希望に添うようにしている。職員は入浴ケアは利用者との信頼度を増す重要な時間として大事にしており、心地よいサービスが提供できていることが感じ取れる。		
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 一人ひとりの状況に応じて休息していただいている。不眠の方に話を聞いたりお茶を飲んでいただいたり、安心できるような対応を心がけている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 入居時の情報や、後日収集した情報からご本人の好きなこと・得意なことを把握し、レクリエーションや作業を提供している。 (外部評価) アセスメントシートにある生活歴を基にしているが、職員と利用者がホームで一緒に生活をしていく上で構築された役割や楽しみ事を重視し、日常生活に組み込んでいる。また、普段着の生活を提供することを目標としているため、必然的に利用者にストレスをためないための気晴らしにも配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 能力に応じてお金を所持していただいている。買い物の際自分で支払いをしていただいている。		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 安全を確保した上で、自由に散歩していただいている。毎日の買い物には利用者さんと一緒に行くようにしている。 (外部評価) 散歩や買い物など職員から外出を促すような取り組みを行っている。外出は利用者が地域の人と触れ合える機会との認識もあり、積極的な外出支援が行われている。		
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) まだできていない。	※	今後検討したい。
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 希望と必要に応じて行っている。		
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 気兼ねなく自由に訪問していただけるよう心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 理解しており、拘束をしないケアを心がけている。		
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 玄関にセンサーを設置したり風鈴をつけることで施錠をしないよう取り組んでいる。 (外部評価) 玄関やユニット入口は、夜間の防犯以外には鍵は掛けられていない。排泄や入浴介護などで職員の目が少なくなっても、見守りを怠らないように職員間で話し合いができており、利用者の安全に配慮している。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 夜間は1時間ごとに安否確認を行っている。 日中は利用者さんの所在を定期的に確認している。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) している。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) マニュアルを作成しているが、個別の対応については職員全員に周知できていない。 ヒヤリハットの活用で事故防止に努めている。	※	順次救命講習を受けていく。


自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 訓練は行われていない。	※	順次救命講習を受けていく。
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 近所に推進会議の委員さんがいらっしゃるので協力は得られるが、具体的に依頼していない。 (外部評価) 避難訓練などはまだ実施されていない。また、地域との連携も求められる。	※	近隣の方々に依頼して連絡網を作成したい。 近々に避難訓練を行う予定があるということなので、定期化することを望む。また、地域住民を交えての訓練も検討することを期待する。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	(自己評価) 入居時に想定できるリスクについては話をしている。状況に応じて早めにご家族の方には説明するよう努めている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 状態の変化については職員間で情報を共有している。管理者を通じてご家族に連絡し、必要に応じて主治医の指示を仰いでいる。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬のファイルを作り理解に努めている。薬の変更がある時は申し送りで全員に伝達している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 食材に繊維の多い野菜を多く使用するよう努めている。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 毎食後一人一人に合った支援をしている。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事摂取量や水分チェックは行っているが、摂取カロリーのチェックはできていない。 病状的に減塩が必要な方には減塩対策をしている。 (外部評価) ある程度のメニューは決められているが、旬の食材やスーパーの特売状況などで献立は変わる。また、利用者の希望や職員の技量にも左右される面があるが、作った料理は記録している。記録を見る限りは栄養バランスには問題はないと思われるが、カロリーなど数値的な裏付けがなされていない。	※	栄養バランス・カロリー計算などのチェックを行っていく。 献立や食材の記録から、摂取カロリーや栄養バランスを判断することが可能なため、保健センターなどの協力を得て、毎食の計算ではなくても、一日の目安的な数字を把握することが求められる。
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) マニュアルを作成し、実行している。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) マニュアルを作成し実行している。 買い物には毎日行き新鮮な食材を購入している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 玄関に花や観葉植物を置いたり、ベンチを置くなど工夫している。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) なるべく季節の植物を飾るようにしている。利用者さんと作った作品やカレンダーを掲示している。 (外部評価) 共用空間は、家具の配置でダイニングとリビングに区切られており、生活のシーンでうまく使い分けている。運営者は、二つ目のホームであるために、間取りや設備をよく研究しており、利用者にとって心地よい空間が提供されている。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 居間のテーブルの自分の席がそれぞれの居場所となっている。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) できるだけ以前生活していた部屋の家財を持ってきていただいている。 (外部評価) 利用者により配置されている家具等は異なるが、それぞれ使い慣れたものを持ち込んでいる。また、写真や絵なども飾られており、居心地よく過ごせる部屋となっている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 個々の状況に応じて温度調節を行っている。衣類の調節で温めすぎず、冷やし過ぎずを努めている。天気の良い日はなるべく布団を干したり換気したりしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) バリアフリーで手すりがついており安全で自立した生活を送っていただけるよう配慮している。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 個人の状況に応じて大きく名前を書いたり、トイレの表示をしたりしている。		
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 敷地内の畑で作業をしていただいたり、ベンチに座り作物を眺めたりしていただいている。テラスにもベンチを置きひなたぼっこをしながらお茶を楽しんだりしていただいている。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目			
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	① ほぼ全ての利用者の (自己 2 利用者の2/3くらいの 評価) 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	毎日の利用者さんとの会話の中で、思いや願いを汲み取るよう努めている。また、その情報を職員間で共有している。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	① 毎日ある (自己 2 数日に1回程度ある 評価) 3 たまにある 4 ほとんどない	毎日の食事、おやつは利用者さんと一緒にいただくようにしている。天気の良い日は、テラスに出てひなたぼっこをしている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	一人ひとりの能力とその日の状況を把握した上で、ご本人のペースが保てるよう支援している。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者さん一人ひとりの得意なこと・好きなことを把握し、それが発揮できるよう、また、楽しめるよう支援している。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	外出行事はなるべく全員が参加できるよう心がけている。希望に応じて、買い物や近辺の散歩に出ている。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	それぞれにかかりつけ医を有しており、異常があれば連絡をしている。看護資格を有している職員が3名おり、健康管理を行っている。毎朝バイタルチェックを行い異常の早期発見に努めている。
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	業務のマニュアルにとらわれることなく利用者さんの状況や要望を優先して支援している。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく	1 ほぼ全ての家族と (自己 ② 家族の2/3くらいと 評価) 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	ご家族の方が来所された際は利用者さんの状況をお話し、ご家族の不安解消や希望の聞き取りが出来るよう努めている。なかなかお会いできないご家族には毎月文書でお知らせしている。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	1 ほぼ毎日のように (自己 2 数日に1回程度 評価) ③ たまに 4 ほとんどない	近所の小学生の生徒さんが遊びに来てくれたり、畑の手伝いをしてくださる方がきてくださっている。散歩の際知り合った近所の方に遊びに来てくださるようお誘いしている。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大に増えている (自己 ② 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	会議では地元の方から協力的なご意見や、情報提供をいただいている。関係機関の方々からは利用者さんの紹介をいただき、入居後も面会に来てくださっている。
98	職員は、生き活きと働いている	① ほぼ全ての職員が (自己 2 職員の2/3くらいが 評価) 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	職員は利用者さんの笑顔を見ることに喜びを感じている。また、職員間で支援方法の検討を行うなど前向きに仕事が出来ている。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	満足していただけるようサービス提供を行っているが、すべての方が満足されているかどうかは判断しがたい。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての家族等が (自己 ② 家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	ご家族の方からご指摘があった場合は真摯に受け止め改善するようにしている。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

- ・基本理念にもある、怒らない・焦らない・諦めないを常に念頭に置き、利用者さんに安心して生活していただけるよう心がけている。
- ・質のよい暖かい笑いを大切にし、利用者さんの笑顔が見られるよう支援している。
- ・利用者さんのできることとできないことを把握した上で、出来ないことはお手伝いし、出来ることはなるべく一緒に行っている。